

■日本が誇る世界一の建築材「檜」

・木材の最高峰に位置する神の木“檜”

太古より神ノ木として希少価値を保ち続けてきた檜は、材そのものもつ強靱さにおいて、耐久性において、優美さにおいて、独特の香りにおいて、あらゆる点においても建材としての木材の頂点に君臨します。

・檜の驚異的耐久性

檜は二千六百年を超える他の追随を許さない樹齢のものが現存するのです。

世界最古の木造建造物である「法隆寺」（建立以来千三百年）に使用されているヒノキは樹齢千三百年のもの、建材として伐採されてから樹齢（年齢）と同じ年月を生き抜く脅威の木材です。

（参考「法隆寺を支えた木」西岡常一氏）

・杉材は40年、檜は60年～70年を多くの手間をかけて育てられます。多くの手間をかけて育てられる檜材は、我が子を慈しみ育てる親の想いがあってはじめて建材として利用されます。

・檜の「年輪」

年輪（ねんりん）は、樹木の幹の横断面に見られる同心円で、年輪はその木の生育年数を表しています。

4寸角の檜の芯持材は樹齢60年～65年の1本の木から1本しかとれない大変貴重なものです。檜は成長が遅い分目が詰まっていて比重が大きく強固になります。一般的に使われている杉は、檜のほぼ半分の年数で4寸の柱が取れるほど成長に違いがあるのです。



【檜の年輪】（年輪幅の間隔が密）



【杉の年輪】

・「木材活用辞典」（株）産業調査会 辞典出版センター刊 ひのき[檜]

1. 分布/産地：福島県東南部以南の本州・四国・九州に分布。造木林としては吉野、尾鷲、天竜、和歌山など。また、天然材としては木曾、高野山、高知県西部のものが有名。日本の景観を構成する代表的樹種である。

2. 特徴/心材は淡紅色、辺材はほとんど白色。木目直通、緻密、軽軟で、美しい光沢がある。割裂・反張が少なく、弾力、靱性、また、独特の芳香があり、材料としての価値を高めている。耐久性が高く、しかも長期の水湿に耐える。極めて良材である。